

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバ出現数が増加しています

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)

ラーバは久栗坂沖で6.7個体/m³見られました(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で63.9個体/m³、川内沖で626.6個体/m³見られました(図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません。

(4) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は見られていません。

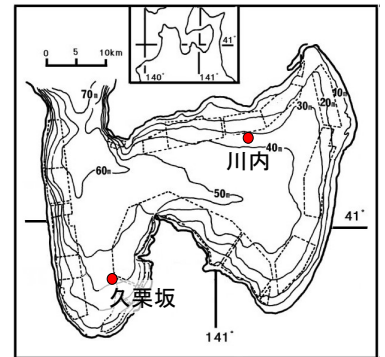


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は7~10℃台と平年よりやや高めからかなり高めになっています。

(1) ユウレイボヤ

例年のラーバ出現ピークは過ぎ去りますが、ラーバが増加しています。

これまでの調査で、冬季の平均水温が8℃以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m³以下であれば春の付着量が少なくなることが分かっています(図4)。

冬季水温の平年値は青森ブイで8.1℃、東湾ブイで5.6℃ですが、今年はまだ見られない暖冬により水温は高めに推移しているほか、一部のパールネットに秋生まれのユウレイボヤが大量付着し、久栗坂沖の累積ラーバ数も10.6個体/m³と多くなっていることから、分散済みの籠や耳吊りへの付着がさらに多くなるものと思われる。

(2) キヌマトイガイ

ラーバが増加してきたことから、今後、籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着するものと思われる。

(3) アミクサ、オベリア類

これから春にかけて小枝が本格的に出現し、クラゲが出現するものと思われる。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ	キヌマトイガイ	ムサキイガイ	オベリア類		アミクサ
							クラゲ	小枝	
久栗坂沖	R2.1.23	6.7	0.0	0.0	63.9	27.2	0.0	0.0	0.0
川内沖	R2.1.23	0.0	0.0	0.0	626.6	192.2	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

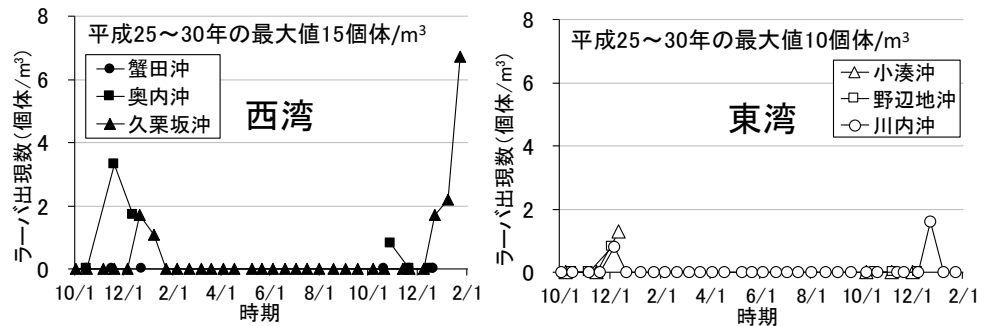


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成30年10月~令和2年1月)

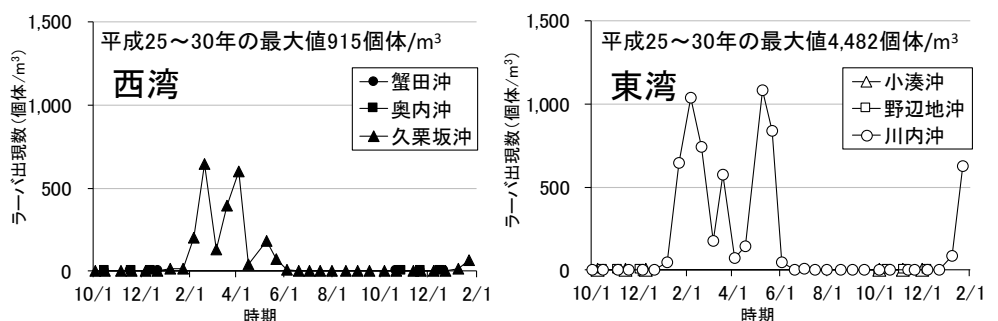


図3 キヌマトイガイ出現数の推移(平成30年10月~令和2年1月)

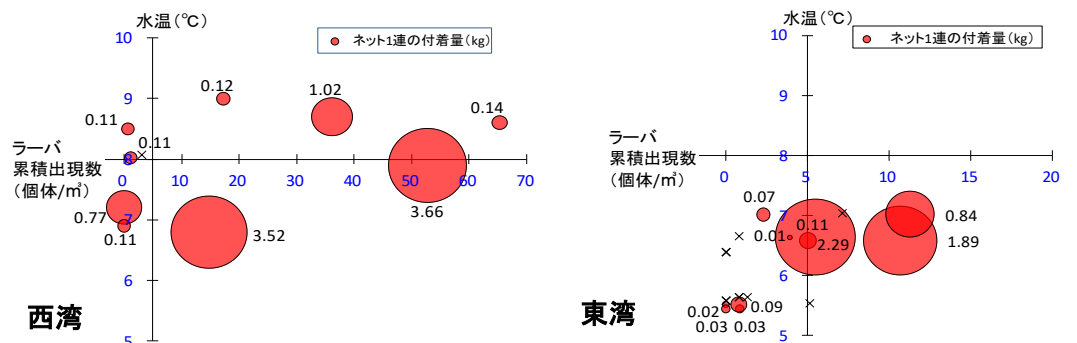


図4 平成16~30年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの冬季の平均水温と翌春のパールネット1連の付着量の関係(○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg)